

第1章 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、「宮城県猛禽類保護・保全対策検討会」の監修の下に、宮城県内の猛禽類（ワシタカ類）の生息状況を把握するとともに、保護・保全を図るために、東日本大震災による環境変化を含め関連する新たな情報や知見を収集・分析し、普及啓発の推進、農林行政との連携等、宮城県民が一体となって推進することが望ましい方策をとりまとめたものである。

1.2 調査対象地域

調査対象地域は、宮城県内全域を対象とした。また、結果の集計は、総務省が定めた標準地域メッシュにおける第2次地域区画（以下「2次メッシュ」という。）を四分割した5倍地域メッシュで行い、それを調査対象メッシュとした。ただし、イヌワシにおいては、生息地の保護の観点から、結果の表示範囲は、2次メッシュとしている。調査対象地域及び調査対象メッシュを図1-1に示す。

図において、太線は2次メッシュを、細線は5倍地域メッシュを示し、各調査対象メッシュ数は2次メッシュで112メッシュ、5倍地域メッシュで380メッシュとなっている。メッシュの各辺の長さは、緯度によって若干異なるが、2次メッシュで約10km、5倍地域メッシュで約5kmとなっている。

本報告書では、基本的に「メッシュ」とは5倍地域メッシュを指し、2次メッシュの説明に限り「2次メッシュ」と表記した。

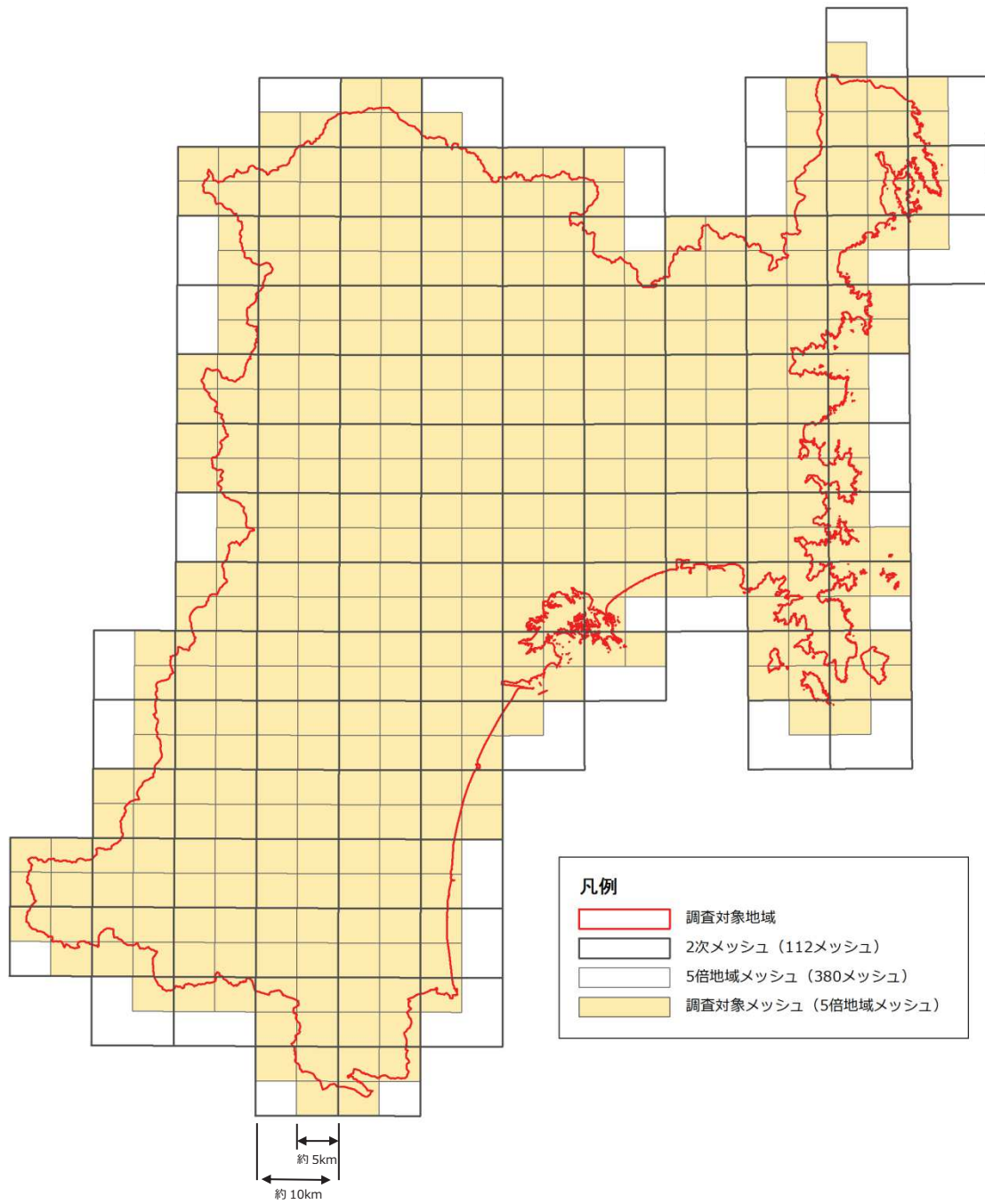


図 1-1 調査対象地域

1.3 調査期間

調査は平成 26 (2014) 年 8 月～平成 28 (2016) 年 1 月の期間に実施した。

1.4 調査対象種

調査対象種は、表 1-1 に示す法律や規制等の選定基準に該当する 13 種とした。調査対象種を表 1-2 に、それらの生息環境イメージを図 1-2 に、猛禽類の行動圏の概念図を図 1-3 に、行動圏の内部構造の定義を表 1-3 に、一般生態を表 1-4(1)～(13)に示す。

表 1-1 調査対象種の選定基準

	名 称	カテゴリー
I	『文化財保護法』(1950 年法律第 214 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別天然記念物(特天) ・ 天然記念物(天)
II	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(1992 年法律第 75 号)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内希少野生動植物種(国内) ・ 国際希少野生動植物種(国際)
III	『環境省レッドリスト 2015』 (環境省 2015)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絶滅(EX) ・ 野生絶滅(EW) ・ 絶滅危惧 I A 類(CR) ・ 絶滅危惧 I B 類(EN) ・ 絶滅危惧 II 類(VU) ・ 準絶滅危惧(NT) ・ 情報不足(DD) ・ 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
IV	『宮城県の希少な野生動植物 —宮城県レッドリスト 2013 年版—』 (宮城県 2013)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絶滅(EX) ・ 野生絶滅(EW) ・ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・ 絶滅危惧 II 類(VU) ・ 準絶滅危惧(NT) ・ 情報不足(DD) ・ 絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・ 要注目種(要)

表 1-2 調査対象種一覧

種名	文化財保護法	種の保存法	環境省レッドリスト 2015	宮城県レッドリスト 2013 年版
イヌワシ	天	国内	EN	CR+EN
クマタカ		国内	EN	CR+EN
オオタカ		国内	NT	NT
サシバ			VU	VU
ミサゴ			NT	
ハヤブサ		国内	VU	NT
オジロワシ	天	国内・国際	VU	VU
オオワシ	天	国内	VU	VU
チュウヒ			EN	NT
ハチクマ			NT	NT
ツミ				DD
ハイタカ			NT	NT
チゴハヤブサ				要

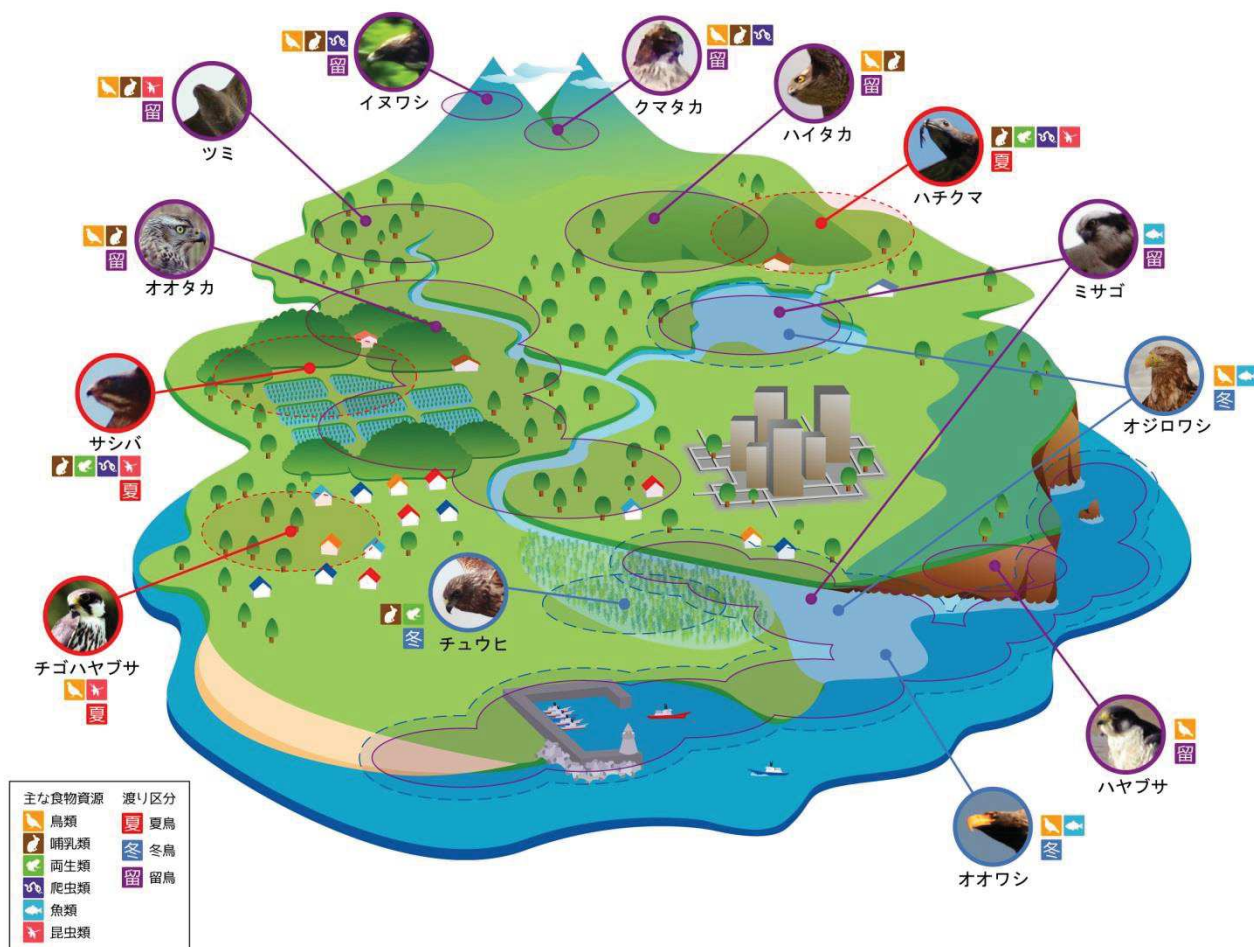
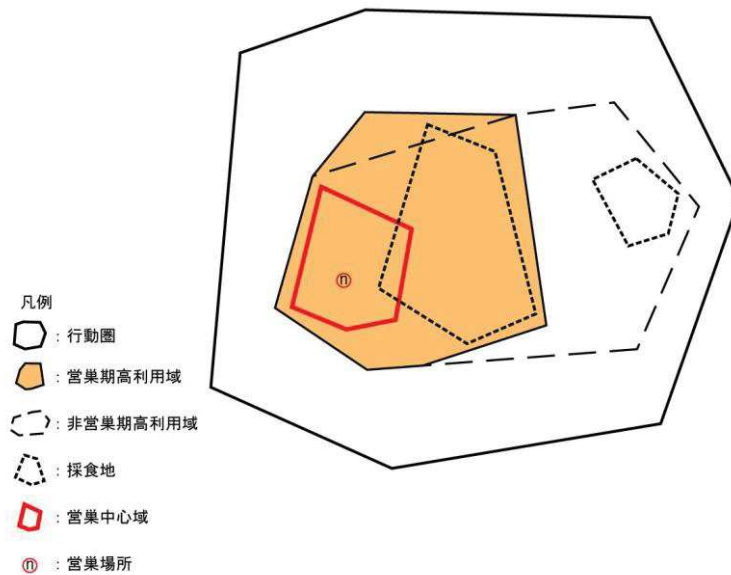


図 1-2 調査対象種の生息環境イメージ



※ 図は「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（環境省 2012）より作図した。

図 1-3 猛禽類の行動圏概念図

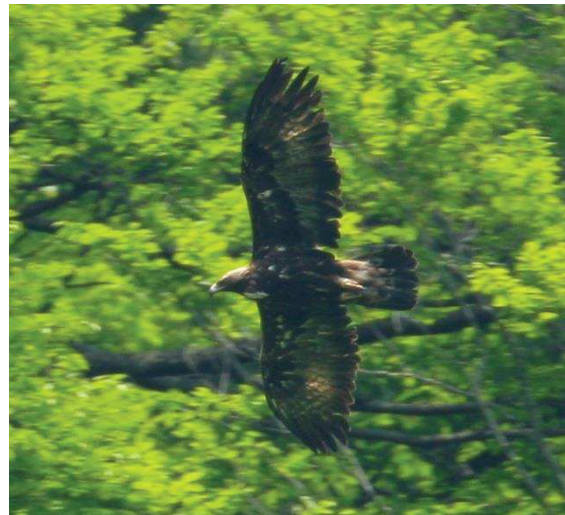
表 1-3 猛禽類の行動圏の内部構造の定義

区分	定義
行動圏	つがいが通常的生活を行うために飛行する範囲で、非利用部分も多く含まれている。また、年間を通じて行動圏は一定であるわけではなく、通常、営巣期の行動圏は、巣に獲物を運ぶ必要があるために狭くなることが多い。
高利用域	行動圏内にあるつがいが高頻度で利用する範囲で、重要な採食地やそこへの移動ルートとなっている範囲を含む。この部分に事業が影響を与えることは、採食環境を悪化させることにつながる。行動圏と同様、営巣期と非営巣期で面積や場所が異なることが多く、それぞれを営巣期高利用域、非営巣期高利用域と呼ぶ。
採食地	主に高利用域内に位置することの多い、採食に利用される場所である。一般に巣の周囲の近い範囲に集中して分布するが、イヌワシやクマタカでは高利用域外にも分布することが多い。特にイヌワシでは、生息地によっては採食に適した場所が限られており、行動圏内に広く点在していることもしばしばみられる。採食地に事業が影響を与えることは、繁殖に向けての親鳥の繁殖生理機能の維持や、繁殖期の食物確保に影響をもたらすことにつながる。
営巣中心域	営巣場所の営巣木や岩棚及びそこに近接する監視やねぐらのためのとまり場所、食物の処理場所等を含む区域を指す。特に営巣・繁殖期にはこの区域内への人の立ち入りや作業の影響が大きく、この部分に事業が影響を与えることは、営巣の継続に影響をもたらすことにつながる。巣立ち雛が独り立ちするまで過ごす範囲でもあり、広義の営巣場所（営巣地）として一体的かつ慎重に取扱われるべき区域である。クマタカでは、繁殖期に強く防衛される範囲も含む。

※ 行動圏の定義は「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（環境省 2012）より引用した。

表 1-4(1) イヌワシの一般生態

学名	<i>Aquila chrysaetos</i>
指定状況	文化財保護法：天然記念物 種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 RL2015：絶滅危惧 I B 類 宮城県 RL：絶滅危惧 I 類
分布	北海道から九州にかけて生息、繁殖する。ユーラシアからアフリカ北部、北アメリカにかけて広く分布する。
サイズ	全長：♂78～86cm、♀85～95cm 翼開長：♂170～190cm、♀190～210cm 体重：3.2～5.5kg
特徴	全体に暗褐色で、頭頂部、頸部と雨覆部は黄色っぽい褐色。幼鳥は濃い褐色でかなり黒っぽく見えるが、両翼と尾羽の基部に明瞭な白斑がある。
生態	山岳地帯に生息。主にノウサギ、ヤマドリ、大型のヘビを捕食する。 日本では産卵期は1～2月。営巣場所は上昇気流のある急峻な崖地の岩棚が多いが、時には大きな樹木に営巣することもある。一腹卵数は普通2卵（1～3卵）。抱卵期間は約42日。主に♀が抱卵。孵化後70～80日で巣立つ。



注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

文化財保護法：「文化財保護法」（1950年 法律第214号）

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992年 法律第75号）

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013年版－」（宮城県 2013）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は阿部功之氏提供（宮城県内で撮影）。

表 1-4(2) クマタカ的一般生態

学名	<i>Spizaetus nipalensis</i>
指定状況	種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 RL2015：絶滅危惧 I B 類 宮城県 RL：絶滅危惧 I 類
分布	九州以北で繁殖。スリランカからインドシナ半島、中国南東部に分布する。
サイズ	全長：♂70～76cm、♀75～83cm 翼開長：♂138～154cm、♀147～169cm 体重：♂2.0～2.5kg、♀2.5～3.5kg
特徴	全体に暗褐色であるが、下面は淡い色で胸には縦斑、腹には横斑がある。頭部は黒色で、尾羽には太い横縞があり、翼下面にも縞模様がある。後頭部の羽毛はやや長く冠羽状になる。 幼鳥は全体に淡い色で、特に下面はかなり白っぽい。 虹彩色（目の色）は年齢と共に変化し、幼鳥では初め灰青色をしているが、次第に黄緑色から黄色になり、成鳥ではオレンジ色になる。
生態	山岳部の森林帯に単独又はペア（繁殖期）で生息し、中小動物を捕食する。 産卵期は3～4月。一腹卵数1卵。主に♀が抱卵。抱卵期間約1ヶ月半。巢内育雛日数は不明であるが、7～8月に巣立つ。



注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992年 法律第75号）

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト2013年版—」（宮城県 2013）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(3) オオタカ的一般生態

学名	<i>Accipiter gentilis</i>
指定状況	種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 RL2015：準絶滅危惧 宮城県 RL：準絶滅危惧
分布	四国の一部、本州、北海道の広い範囲で繁殖。九州でも対馬では留鳥といわれる。ほぼ同じ地域に1年中生息するが、一部は渡りをする。
サイズ	全長：♂約 50cm、♀約 57cm 翼長：31～35cm 翼開長：♂106cm、♀131cm 体重：♂0.6kg、♀0.9kg
特徴	成鳥では、上面及び頬は暗青灰色で、明瞭な眉斑がある。下面は白く、黒色の細かい横斑が一面にある。♀は♂より大きく、全体にやや褐色みが強い。幼鳥は上面が褐色。下面は淡黄褐色で、胸から腹にかけて暗褐色の縦斑がある。
生態	平地から低山帯の林に生息し、小～中型の鳥獣を捕食する。 アカマツ等の樹木に巣を架け、一腹卵数は普通 2～3 卵。主に♀が抱卵。抱卵期間 35～38 日。孵化後 35～40 日で巣立つ。



注 1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992 年 法律第 75 号）

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト 2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版－」（宮城県 2013）

注 2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第 3 巻 鳥類 I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(4) サシバの一般生態

学名	<i>Butastur indicus</i>
指定状況	環境省 RL2015：絶滅危惧Ⅱ類 宮城県 RL：絶滅危惧Ⅱ類
分布	本州北部以南に夏鳥として渡来、中国東北部、沿海地方でも繁殖、冬季には東南アジアへ渡る。
サイズ	全長：47～51cm 翼長：31～35cm 翼開長：103～115cm 体重：0.3～0.4kg
特徴	翼は細長く、尾は中くらいの長さ。成鳥の♂は頭部が灰褐色、♀は暗褐色。♂の体と翼の上面は赤みのある褐色、♀は暗褐色。♂♀とも胸に太い横帯、腹に横縞、喉に太い縦線が1本、尾には暗褐色の横帯が4本ある。♀は眼の上に白い眉斑があるものが多いが、♂では眉斑のないものが多い。眼は金色。稀に全身黒褐色のタイプが見られる。♀のほうが、少し体が大きい。 幼鳥は成鳥に似ているが、体の上面に赤みがなく、胸から腹にかけて縦斑がある。眼は暗褐色で、眉斑が幅広い。
生態	丘陵地、低山帯の林に生息し、ヘビ、トカゲ、カエル、ネズミ、バッタ等を捕食する。主に針葉樹に巣を造り、1日おきに計2～4卵を産む。主に♀が抱卵。抱卵期間は約1ヵ月。孵化後36日前後で巣立つ。 「ピックイー」か「キンミー」と聞こえる声でよく鳴く。
	

注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013年版－」（宮城県 2013）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類Ⅰ」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(5) ミサゴの一般生態

学名	<i>Pandion haliaetus</i>
指定状況	環境省 RL2015：準絶滅危惧
分布	全国に分布し、北日本では冬鳥。北半球全域とオーストラリア沿岸部で繁殖し、アフリカや南アメリカへ渡り、越冬する。
サイズ	全長：♂54cm、♀64cm 翼長：45～51cm 翼開長：155～175cm 体重：1.5kg
特徴	翼は細長く、上面は黒褐色、下面は白っぽく見える。尾は短めで白っぽく、横縞がある。頭部は白くて過眼線が黒く、後頭に短い冠羽がある。体の背面は黒褐色、腹部は白色。胸に黒褐色の帯がある。シルエットはトビに似るが、尾がくさび形ではない。
生態	河川、湖沼、海岸に生息し、魚を捕食する。 高い場所に巣を造り、一腹卵数は普通3卵。抱卵期間は37日。孵化後55～60日で巣立つ。 「ピヨッピヨッ」と鳴く。




注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト2015」（環境省 2015）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(6) ハヤブサの一般生態

学名	<i>Falco peregrinus</i>
指定状況	種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 RL2015：絶滅危惧Ⅱ類 宮城県 RL：準絶滅危惧
分布	北海道から九州まで留鳥として繁殖するほか、北方から越冬のため渡ってくる個体群がある。同一種は南極大陸を除く世界に広く分布。
サイズ	全長：♂38～45cm、♀46～51cm 翼長：♂30～33cm、♀34～48cm 翼開長：♂84～104cm、♀111～120cm 体重：0.6～1.3kg
特徴	性的二型が顕著で、♀の方が♂よりかなり大きい。成鳥の体と翼の上面は灰色がかかった紺色で、頭部と頬のいわゆるハヤブサひげは黒に近い。下面は白く、腹と脇と足を覆う羽毛に黒い横斑がある。胸に細い縦斑のある個体から、ほとんどない白いものまで個体差が大きい。 幼鳥は上面が暗褐色、下面が淡い茶色で、胸から腹部にかけて暗褐色の太い縦斑がはっきり見える。ハヤブサひげは幅が狭く薄いので、あまり目立たない。
生態	小中型の鳥類が豊富で、営巣可能な断崖や大きな岩がある海沿いや大きな河川の流域等に生息。小中型の鳥類を急降下して捕食する。 カラスやノスリ等の古巣を利用して、樹木、高層ビルや橋げた等の人工物でも営巣することがある。また、なわばり内には普通営巣場所が複数あり、状況に応じて営巣場所を決める。日本では産卵期は3～4月。一腹卵数3～4卵。主に♀が抱卵し、抱卵期間24～34日。ヒナは孵化後35～42日で巣立つ。
	

注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992年 法律第75号）

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト2013年版—」（宮城県 2013）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類Ⅰ」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(7) オジロワシの一般生態

学名	<i>Haliaeetus albicilla</i>
指定状況	文化財保護法：天然記念物 種の保存法：国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種 環境省 RL2015：絶滅危惧Ⅱ類 宮城県 RL：絶滅危惧Ⅱ類
分布	北海道で少数が繁殖、冬季には九州まで南下するものもいる。ユーラシア北部に広く分布。
サイズ	全長：♂76～90cm、♀86～98cm 翼長：♂52～64cm、♀62～72cm 翼開長：♂199～225cm、♀202～228cm 体重：♂3.0～5.4kg、♀4.0～6.9kg
特徴	成鳥の体は茶褐色で、頭から胸部にかけてクリーム褐色、尾羽は白い。幼鳥と若鳥は全身が黒褐色や淡褐色の混じる褐色で、尾羽は齢ごとに白色部が増す。
生態	海岸や湖沼、大きな河川の近くに生息。魚類や鳥類を主食とし、ウサギやヘビ等も捕食。屍肉も食べる。 一腹卵数は普通 2 卵（1～3 卵）。♂♀で抱卵し、抱卵期間は 1 ヶ月強。
	

注 1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

文化財保護法：「文化財保護法」（1950 年 法律第 214 号）

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992 年 法律第 75 号）

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト 2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト 2013 年版—」（宮城県 2013）

注 2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第 3 巻 鳥類 I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は海原要氏提供（宮城県外で撮影）。

表 1-4(8) オオワシの一般生態

学名	<i>Haliaeetus pelagicus</i>
指定状況	文化財保護法：天然記念物 種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省 RL2015：絶滅危惧Ⅱ類 宮城県 RL：絶滅危惧Ⅱ類
分布	冬鳥として渡来するが、北海道や東北地方に多い。ロシア極東のアムール川下流域、オホーツク海沿岸、カムチャツカやサハリン北部で繁殖し、冬季は日本等で越冬。
サイズ	全長：♂88cm、♀102cm 翼長：♂56～65cm、♀60～65cm 翼開長：220～250cm 体重：5～8kg
特徴	成鳥の体は黒褐色で尾羽と雨覆、腿、額が白い。嘴は大きく鮮黄色。虹彩と足も黄色。若鳥は成鳥よりも淡い褐色で翼や下面に白斑が目立つ。尾羽は白いが羽の先端や外縁に褐色斑がある。尾の褐色斑は年齢が進むにつれ減り、やがて白色になる。嘴は淡い黄色で虹彩は褐色。
生態	魚の捕れる海岸や河川、湖沼の周辺に生息。カラフトマス、シロザケ、スケトウダラ等の魚類、カモ類等の鳥類、アザラシ等の哺乳類や漂着死体を食べる。 一腹卵数は普通 2 卵（1～3 卵）。抱卵期間は 1 ヶ月から 1 ヶ月半。
	

注 1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

文化財保護法：「文化財保護法」（1950 年 法律第 214 号）

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992 年 法律第 75 号）


環境省 RL2015：「環境省レッドリスト 2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版－」（宮城県 2013）

注 2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第 3 巻 鳥類 I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(9) チュウヒの一般生態

学名	<i>Circus spilonotus</i>
指定状況	環境省 RL2015：絶滅危惧 I B 類 宮城県 RL：準絶滅危惧
分布	日本では冬鳥で、本州、佐渡、四国、九州、伊豆諸島、沖縄で越冬記録があり、北海道と本州中部以北で少数が繁殖(青森、秋田、石川、滋賀各県)。同一種はシベリア南部、中国北部、サハリン等で繁殖、冬季は日本や東南アジアへ渡る。
サイズ	全長：48～58cm 翼長：37～44cm 翼開長：113～137cm 体重：0.3～0.6kg
特徴	♀♂とも個体による羽色の変化が多い。♂は頭部が灰色で淡褐色の縦斑のあるものと、黒色縦斑が密にあり一見黒く見えるものがある。♀は全体に褐色であり、腰の部分に目立つ斑紋があるものとならないものが見られる。
生態	湿地に生息し、野ネズミ類やカエルを捕食する。 一腹卵数 5～6 卵。抱卵期間 31～38 日。孵化後 5 週間で巣立つ。
	

注 1：指定状況はそれぞれ以下を示す。


環境省 RL2015：「環境省レッドリスト 2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト 2013 年版—」（宮城県 2013）

注 2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第 3 巻 鳥類 I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(10) ハチクマの一般生態

学名	<i>Pernis ptilorhyncus</i>
指定状況	環境省 RL2015：準絶滅危惧 宮城県 RL：準絶滅危惧
分布	夏鳥として日本に渡来し、北海道、本州で繁殖。四国、九州、沖縄では渡りの際に通過するが、繁殖はしていないようである。バイカル湖西部から極東にかけて繁殖。越冬地は中国南部から東南アジア。
サイズ	全長：♂57cm、♀61cm 翼長：♂38～39cm、♀41～42cm 翼開長：121～135cm 体重：♂0.5～0.8kg、♀0.6～1.0kg
特徴	全身褐色であるが羽色には変異が多く、暗色形、褐色形、白色形がある。喉の下に W 形の暗色斑があり、尾羽には幅広い黒色の横帯が 2～3 本ある個体が多い。これらの点が識別ポイントになる。
生態	丘陵地から低山帯で繁殖し、ハチの卵や幼虫、サナギ、成虫を主に食べるほか、他の昆虫、カエルやトカゲ、ネズミ等も食べる。 高い木の枝に大きな巣を造り、一腹卵数 2～3 卵。♂♀で抱卵。抱卵期間は 30～35 日。孵化後 35～45 日で巣立つ。 渡りルートに当たる場所では、秋に群れで南へ渡っていくのが観察される。
	

注 1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト 2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版－」（宮城県 2013）

注 2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第 3 巻 鳥類 I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は阿部功之氏提供（宮城県外で撮影）。

表 1-4(11) ツミの一般生態

学名	<i>Accipiter gularis</i>
指定状況	宮城県 RL：情報不足
分布	北海道から沖縄まで繁殖。同一種はシベリア南部からアムール、ウスリー地方、モンゴル北部、中国東部、朝鮮、サハリン、千島南部等で繁殖し、日本、中国南部、東南アジアで越冬。
サイズ	全長：♂約 27cm、♀約 32cm 翼長：♂約 17cm、♀約 19cm 翼開長：♂約 51cm、♀約 62cm 体重：♂0.1kg、♀0.1kg
特徴	♂の上面は濃い青灰色、下面は汚白色で、胸から脇腹にかけては淡い赤褐色。眼は暗赤褐色。 ♀では上面が濃いスレート色で、下面は黒褐色の横縞がある。♀は細い眉斑をもつものがある。眼は黄色。
生態	平地から亜高山の森林に生息し、近年では、主に関東地方を中心に住宅地の緑地や街路樹で繁殖するものが増加している。スズメ大からツグミ大までの小鳥類、コウモリ、ネズミ等の哺乳類、セミ等の昆虫を捕食。 産卵期は4月下旬～5月上旬。高い枝に巣をかける。一腹卵数 2～5 卵、抱卵は主に♀。抱卵期間 26～29 日。約 1 ヶ月で巣立つ。 「クウ、クウ、ピョーピョピョピョ」または「キョーキョキョキョ」と尻下がりに鳴く。♀は繁殖期に「ケッケッケ」又は「ケーケー」と鳴く。
	

注 1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト 2013 年版—」（宮城県 2013）

注 2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第 3 巻 鳥類 I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は佐藤賢二氏提供（宮城県外で撮影）。

表 1-4(12) ハイタカの一般生態

学名	<i>Accipiter nisus</i>
指定状況	環境省 RL2015：準絶滅危惧 宮城県 RL：準絶滅危惧
分布	ユーラシアの中高緯度地方と北アフリカに分布。本州と北海道で繁殖し、冬季は南日本でも見られる。
サイズ	全長：32～39cm 翼長：20～26cm 翼開長：62～76cm 体重：♂約 0.1kg、♀約 0.3kg
特徴	♂は上面が暗青灰色で尾には数本の黒帯がある。下面は白色の地に赤褐色の細い横斑がある。♀は上面が灰褐色で、下面は白色の地に褐色の横斑。♂♀とも白い眉斑があるのが普通。また、♀の虹彩（目の色）は黄色であるが、年を取った♂の虹彩はかなり赤みを帯びてくる。♂と♀の大きさの差が最も著しい鳥の1つ。 幼鳥は全体的に褐色が強い。
生態	主に森林に生息するが、秋冬にはヨシ原等、開けた場所にも出現する。鳥類を主食とし、稀に小型の哺乳類も捕食する。 繁殖には比較的若齢の針葉樹林を好み、日本では産卵期は5月。一腹卵数4～5卵。抱卵期間32～34日。♀のみが抱卵。孵化後30日前後で巣立つ。 「キッ、キッ、キッ、キッ、キッ」又は「キイー、キイー」と鳴く。
	

注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

環境省 RL2015：「環境省レッドリスト2015」（環境省 2015）

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013年版－」（宮城県 2013）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は現地調査において撮影。

表 1-4(13) チゴハヤブサの一般生態

学名	<i>Falco subbuteo</i>
指定状況	宮城県 RL：要注目種
分布	北海道や東北地方で繁殖する。同一種はユーラシアの寒帯から温帯で繁殖。9～10月にアフリカ大陸の南部、インド、中国の南部、東南アジア方面へ渡り越冬。日本では越冬記録は少数であるが、渡りの時期には繁殖地以外の地域でも姿を見ることがある。
サイズ	全長：♂32～35cm、♀33～37cm 翼長：♂24～28cm、♀25～28cm 翼開長：♂72～81cm、♀78～84cm 体重：0.1～0.3kg
特徴	ハト位の大きさで、体は♀の方が大きい。♂♀はほぼ同色で、体と翼上面は灰色みを帯びた紺色、下腹部と足を覆う羽毛は赤褐色で飛行時にも目立つ。
生態	草原や農耕地のような開けた環境に小さな森や疎林が隣接する所に生息し、主に昆虫や小鳥を捕食。 日本では産卵期は6月中旬～下旬。一腹卵数2～3卵。抱卵期間28～31日。主に♀が抱卵。28～34日で巣立つ。



注1：指定状況はそれぞれ以下を示す。

宮城県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013年版－」（宮城県 2013）

注2：分布、サイズ、特徴、生態は「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」（平凡社 1996）より引用した。

写真は阿部功之氏、清水博之氏提供（宮城県外で撮影）。

1.5 調査内容

本調査では、文献調査、現地調査、生息情報分析、保護・保全施策の4つを主な内容として実施した。また、次項に示す宮城県猛禽類保護・保全対策検討会を計4回実施し、現地調査計画や生息情報分析結果、保護保全施策等について指導・助言を得た。調査の実施フローを図1-4に示す。

文献調査は、宮城県内の猛禽類生息分布の概況を把握することを目的として、調査資料や学術論文等の既存文献及び有識者等からの聞き取りにより、情報の収集・整理を行った。

現地調査は、文献調査で情報が得られなかった地域の生息情報の把握を目的として実施した。調査対象種の生態等を考慮して、平成26年度に家族生活期、越冬期、平成27年度に繁殖期、イヌワシのフォローアップの調査を実施し、調査対象種の生息確認に努めたほか、可能な限り営巣地の特定も含めた繁殖情報の把握や、東日本大震災による生息環境への影響、里山等の二次的自然環境の状況等についても確認に努めた。なお、現地調査の実施に当たっては、文献調査結果を踏まえて、過去に猛禽類の生息が確認された場所であるものの近年の情報が得られなかった地域や、生息分布が不明な地域を整理し、現地調査計画を立案した上で実施した。また、クマタカ、オオタカ、サシバについてはモデル解析により生息適地を推定し、現地調査重点エリアの検討資料とした。

生息情報分析は、猛禽類の保護・保全施策の検討に向けた基礎情報の把握を目的として、文献調査や現地調査の結果を踏まえて、調査対象種の県内の生息情報を分析した。また、特定の種に対しては、採食環境や生息適地のほか、東日本大震災による生息環境への影響等の詳細な分析を実施した。

保護・保全施策は、「基礎情報の整備」、「個体レベルの保護」、「生息環境の保全」の3つを基本方針として検討を行った。

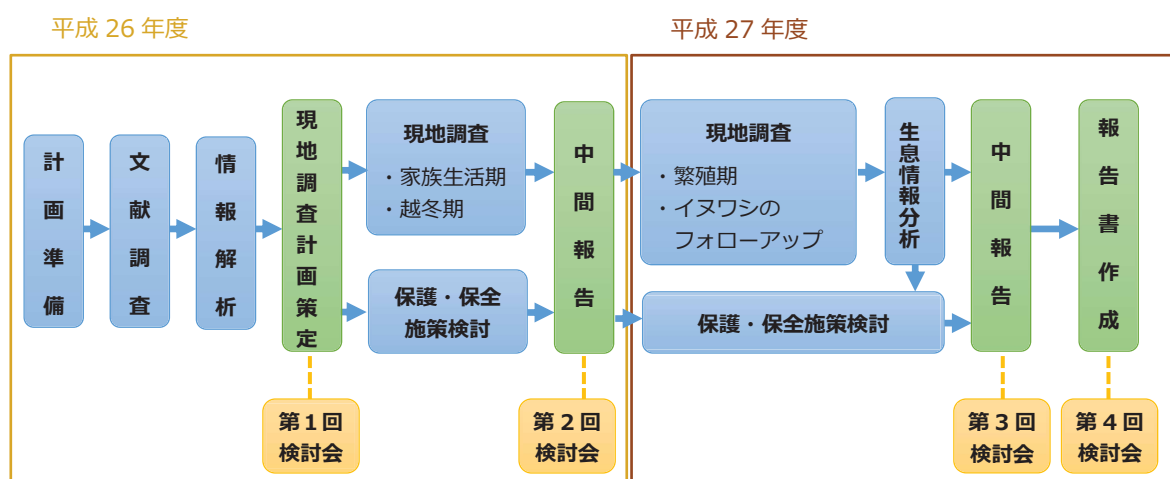


図 1-4 本調査の実施フロー

1.6 宮城県猛禽類保護・保全対策検討会

本調査では、現地調査計画や生息情報分析結果の報告、保護保全施策等について指導・助言を得るため、宮城県猛禽類保護・保全対策検討会を設置し、計4回の検討会を実施した。

宮城県猛禽類保護・保全対策検討会の構成員を表1-5に、検討会の開催状況を表1-6及び写真1-1に示す。

表 1-5 宮城県猛禽類保護・保全対策検討会構成員

氏名	所属	役職
東 淳樹	岩手大学農学部	講師
小室 智幸	日本野鳥の会宮城県支部	副支部長
鈴木 孝男	東北大学大学院生命科学研究科	助教
平吹 喜彦	東北学院大学教養学部地域構想学科	教授
三浦 孝夫	南三陸ワシタカ研究会	会長
由井 正敏	東北鳥類研究所	所長
杉下 泰彦*1	宮城県環境生活部自然保護課	部参事兼課長
米谷 邦明*2	宮城県環境生活部自然保護課	課長

※1 第1回・第2回検討会時の構成員。

※2 第3回・第4回検討会時の構成員。

表 1-6 宮城県猛禽類保護・保全対策検討会開催状況

第1回検討会	平成26年9月11日
第2回検討会	平成27年3月3日
第3回検討会	平成27年11月9日
第4回検討会	平成28年1月13日



写真 1-1 宮城県猛禽類保護・保全対策検討会開催状況（平成27年3月3日）

